

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取県立倉吉総合産業高等学校

重点項目	スポーツ・文化芸術活動	提出日	令和4年4月22日
------	-------------	-----	-----------

1 学校目標	
部活動の振興をとおして、本校の教育目標の柱である「誠実な心とたくましく生きる力」「自主・自律の態度」「思いやりと友情」を涵養し、生徒の個性の伸張や人間性の育成と学校の活性化を促進する。	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>○部活動（運動部・文化部）への加入率と満足度を高める。</p> <p>○顧問が体力・メンタルトレーニング・栄養等についての知識や技能を身に付け、それぞれの部活動での指導に活かす。</p> <p>○競技力向上対策事業（県体協）強化指定部の部員数の拡充及び部員相互の指導・連携を図る。</p> <p>陸上競技(男女)・カヌー(男女) 自転車競技(男女)・レスリング(男)</p> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の部活動加入率 95%以上</li> <li>・学校生活に関するアンケート（A～Eの5段階評価） 生徒 85%以上 保護者 95%以上</li> <li>・強化指定部部員数 陸上競技 25 人 カヌー 25 人 自転車競技 20 人 レスリング 10 人</li> <li>・中国大会への参加人数 延べ 200 人</li> <li>・全国大会への参加人数 延べ 80 人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入率 本校の部活動加入率は90%を超え高い。ただし、学年毎に見ると学年が下がるに従って数値が悪くなり、今後に不安が残る。中には単独でチームが組めず、他校との合同で大会出場する部活動も存在する。</li> <li>・満足度 昨年度は生徒及び保護者ともに80%を超え高い満足度であったが、今年度は何れも79%で数値を落としている。コロナ禍で高校総体は実施できたが、年間を通して部活動に対する時間的・内容的制限が多かったことが影響しているように分析する。</li> <li>・強化指定部の部員 強化指定を受けた部活動は部員の増減はあったものの確実に中国大会や全国大会に出場している。ただし、夏休みに企画した中学生対象の部活動体験は参加者が無く、開催できなかった。広報の仕方や参加の形態を検討する必要がある。</li> </ul> <p>&lt;数値結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率93% (1年86%、2年95%、3年98%)</li> <li>・学校生活に関するアンケート 生徒「自分は、部活動に積極的に取り組んでいる」 好評価（あてはまる・ややあてはまる）79% 保護者「本校は、運動部や文化部等の部活動指導について満足できる指導を行っている。」 好評価（あてはまる・ややあてはまる）79%</li> <li>・強化指定部部員数 陸上競技 17 人 カヌー 22 人 自転車競技 23 人 レスリング 14 人 ソフトボール女子 12 人</li> <li>・中国大会への参加人数 延べ 132 人</li> <li>・全国大会への参加人数 延べ 32 人</li> </ul>

### 3 実施事業

#### 【高等学校課事業】

##### ●文化部校外・合同練習会支援事業

校外の施設を使用して練習する場合や複数校で練習を行う場合の費用（会場費や移動費等）を支援する。

##### ●文化部活動備品整備事業

楽器等、部活動に必要な用具等を整備する。

#### 【独自事業】

##### ●運動部強化プロジェクト→企画をし、中学校に案内をしたが参加者は無かった。

##### ・中学生の部活動体験

強化指定部のうち中学校にはない自転車競技（令和3年度は対象としなかった。）、カヌー、レスリング部の部員数を増やすため、夏季休業中に中学生を対象とした部活動体験を行い、未体験の競技の楽しさを体験させ、競技の普及と競技者の開拓を図るとともに、部員生徒の指導力もあわせて促進する。指導は本校顧問・部員が行う。

### 4 総合所見（成果・評価）

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、普段練習しているメンバー以外が部活動に参加することが難しくなった。夏休みだけでなく、春休みに中学生を体験・参加させ、入学後、部活動に引き入れることは容易ではなくなった。実際に両方とも令和3年度は実施できなかった。本校の部活動のうち、県の強化指定を受けている部は中学校に部活動がないものが多く、今後の部員数を確保するのに苦慮することは容易に想像できる。また、子どもの部活動離れ、特に団体競技の入部に躊躇する傾向が強くなってきていると感じている。

経済的な格差が生じている中、予算面で支援していただくことで、生徒達のモチベーションが上がっているのは事実で、令和3年度に中国大会や全国大会に参加した運動部はいずれも県からの補助金等による恩恵を大いに受けている部である。本校の特色ある部活動の紹介として学校独自事業を実施し、競技力やスキルの向上に資する取組として高等学校課事業を行うことは今後とも継続したいと考えるが、今まで以上に部員確保の困難性を感じている部も少なくはなく、工夫した取組を行う必要がある。

※枚数任意